

2013. 5. 26 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル  
中目黒キリスト教会  
聖別会マンスリー



2013年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

## VII. ローマ書における聖化

### (2) 罪のドレイから解放

テキスト：

「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。死んでしまった者は、罪から解放されているのです。」(ローマ 6:6-7)

#### ■ 6章は二つの質問への答えという構成

Q 1. 罪が増し加わる時、恵みも満ち溢れる(5:20)とすれば、恵みを知るために罪の中に留まるべきだろうか？(1 節)

A. 絶対にNO!!! 理由は：

- ① 私たちは、キリストと共に十字架につけられ、罪に関して死んでしまっている。死んだものが、その中に再び生きることはいえない(2-7 節)。
- ② キリストと共に死んだならば、彼と共に復活し、新しい命に歩んでいる筈である(8-10 節)。

→この経験を信仰によって再確認しよう(11 節)。

Q 2. キリスト者は、律法の束縛から解放されている(14 節)とすれば、「自由に」罪を犯して良いのだろうか？

A. とんでもない!!! 理由は：

- ①キリスト者になる以前は、罪のドレイとして罪に仕えさせられていた(願いとは違った方向に引きずられて行った)が、今は、罪という主人から解放されて、義のドレイ(喜んで神に従う愛のドレイ)となった(6-7、17-18 節)。
- ②義のドレイは聖潔の結実が期待される(22 節)。

→新たな意味で自分を神に捧げよう(13、19 節)。

著者の言葉：

- ①「義と認められた信仰者の中に残る罪とは、聖化の恵みによって解決されるべきもので、自己主権の罪です。つまり、私が私の存在の幾らかでも自分のために取っておく限り、神ではなく、私が主権者です。ですから、ローマのキリスト者は、自らの自由な選択によって神の奴隷となるよう求められているのです。」(出 21:2-6)
- ②「あなたは罪に対してキリストと共に死んでしまった。だから罪に対して死んだものになりなさい。あなたはキリストにあって神に対して生きている。だから神のみに対して生き、神の恵を最大限に生かそう。・・・『なることが出来るようにされた通り』のものになることが大切です。」
- ③「キリスト者は、罪を犯す能力を失ったのではなく、神の恵みと御霊の力によって罪を犯さないことが出来るのです。」